

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職等それぞれの進路へ向けて円滑な活動をできるように、さらに就職後に活躍できる人材になるために、一般常識の学習、業界研究、資格研究、履歴書の書き方、自己PR方法を習得する。
到 達 目 標	1.自己分析をしたうえで、自らの能力、意思について、適切に表現できる。 2.志望する業界、技術動向について、自ら調べることができる。 3.自分の意見を述べることができ、かつ、適切なコミュニケーションをすることができる。
教 科 書	自己分析演習にて『受かる！自己分析シート(著者:田口久人、日本実業出版社)』を使う。
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介 2 キャリアと仕事へのアプローチ 3 仕事の基本となる8つの意識 4 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 5 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 6 指示の受け方と報告、連絡・相談 7 話し方と聞き方のポイント 8 話し方と聞き方のポイント 9 来客応対と訪問の基本マナー 10 来客応対と訪問の基本マナー 11 会社関係でのつきあい 12 仕事への取り組み方 13 ビジネス文書の基本 14 電話応対 15 統計・データの読み方・まとめ方 16 統計・データの読み方・まとめ方 17 情報収集とメディアの活用 18 情報収集とメディアの活用 19 会社を取り巻く環境と経済の基本 20 JLPT試験対策 21 JLPT試験対策 22 業界研究 23 自己分析 24 自己分析 25 履歴書・エントリーシートの書き方 26 履歴書・エントリーシートの書き方 27 企業説明、就職面接について 28 面接対策 29 面接対策 30 面接対策
成 績 評 価 方 法	1)試験点=70% 2)出席・平常点=30% 授業内の模擬テスト、ロールプレイングの取り組み具合なども考慮。 JLPTなどの検定試験合格時には、加点評価。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報リテラシー	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・基本情報技術者試験が対象としている情報リテラシー及びIoTについて学習する。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得を目指す。
教 科 書	[改訂第5版]基礎からわかる情報リテラシー(著者:森本尚之, 奥村晴彦、技術評論社)
年 間 授 業 計 画	1 表計算ソフトの基本機能 2 セルの参照機能 3 表計算ソフトの関数 4 IF関数の使い方 5 表計算分野の筆記問題演習 6 DBMS(データベース管理システム)の機能 7 排他制御機能 8 データ更新とリカバリ 9 関係データベースの仕組み 10 表設計とフィールドのルール 11 データベースの設計に使うE-R図 12 データ操作に使う演算 13 データベース分野の筆記問題演習 14 前期復習問題演習 15 開発プロジェクトのマネジメント 16 ITサービスの調達 17 IOT 戦略・企画 18 IOT プロジェクトマネジメント 19 IOT 人材育成と企業間連携 20 エネルギー関連のIOT 21 身近なIOT 22 産業界のIOT 23 海外におけるIOTプロジェクト 24 IOT関係の標準規格 25 通信関連の法律 26 製造および航空法に関する法律 27 ライセンス 28 IOT デバイス 29 IOT プラットホーム 30 IOT データ分析
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②平常点=70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報処理概論	授 業 方 法	講義
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	基本情報技術者試験シラバスv8.1の内容について、講義および問題演習を行う。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格できる力を養う。 ・社会のなかでどのように情報処理が活かされているかを理解する。
教 科 書	令和06年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室(技術評
年 間 授 業 計 画	1 第1章 コンピュータ構成要素 2 第1章 コンピュータ構成要素 3 第1章 コンピュータ構成要素 4 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 5 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 6 第3章 基礎理論 7 第3章 基礎理論 8 第3章 基礎理論 9 第5章 システム構成要素 10 第5章 システム構成要素 11 第6章 データベース 12 第6章 データベース 13 第6章 データベース 14 前期試験対策 15 前期試験 16 第7章 ネットワーク技術 17 第7章 ネットワーク技術 18 第7章 ネットワーク技術 19 第8章 情報セキュリティ 20 第8章 情報セキュリティ 21 第8章 情報セキュリティ 22 第9章 システム開発技術 23 第9章 システム開発技術 24 第10章 マネジメント系 25 第10章 マネジメント系 26 第11章 ストラテジ系 27 第11章 ストラテジ系 28 第12章 科目B対策 29 後期試験対策 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	受講者の理解や演習の進捗状況により、授業内容や進度を変更することがある。

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報処理概論(演習)	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	・基本情報技術者試験シラバスv8.1の内容について、講義および問題演習を行う。 ・JavaScriptやPythonを用いたプログラミングを行う。(一部は学園祭での発表を想定)
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格できる力を養う。 ・社会のなかでどのように情報処理が活かされているかを理解する。 ・簡易なプログラミングにより、講義内容、および制作活動の楽しさを理解する。
教 科 書	令和06年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室(技術評
年 間 授 業 計 画	1 第1章 コンピュータ構成要素 2 第1章 コンピュータ構成要素 3 第1章 コンピュータ構成要素 4 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 5 第2章 ソフトウェアとマルチメディア 6 第3章 基礎理論 7 第3章 基礎理論 8 第3章 基礎理論 9 第5章 システム構成要素 10 第5章 システム構成要素 11 第6章 データベース 12 第6章 データベース 13 第6章 データベース 14 前期試験対策 15 前期試験 16 JavaScriptによるプログラミング 17 JavaScriptによるプログラミング 18 JavaScriptによるプログラミング 19 JavaScriptによるプログラミング 20 JavaScriptによるプログラミング 21 JavaScriptによるプログラミング 22 JavaScriptによるプログラミング 23 JavaScriptによるプログラミング 24 JavaScriptによるプログラミング 25 Pythonによるプログラミング 26 Pythonによるプログラミング 27 Pythonによるプログラミング 28 Pythonによるプログラミング 29 後期試験対策 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験および実技の評価70% ・上記の項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	情報数学	授 業 方 法	講義
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:葉玉 信子 日本ユニシス(株)や(株)ダイナックスでプログラマーとして勤務。後に専門学校にて情報処理の指導を担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・出来るだけ、今までのわからない数学でなく、わかる数学、面白い数学をめざし、楽しんで取り組んでいけることを目標に進めていきます。 ・問題演習を数多く練習し理解を深めて行きます。
到 達 目 標	・情報学を学ぶために必要な数学の基礎を学習する。 ・論理的な考え方が出来る様に、基本的な数学の理解を深めて行きます。 ・情報処理試験にも対応できるように演習して行きます。
教 科 書	情報処理数学60DAYS
年 間 授 業 計 画	1 第1章 記数法 2 第1章 記数法 3 第1章 記数法 4 第5章 指数関数 5 第5章 指数関数 6 第5章 指数関数 7 第5章 対数関数 8 第3章 集合と論理 9 第3章 集合と論理 10 第3章 集合と論理 11 第9章 確率 12 第9章 確率 13 第9章 確率 14 前期試験対策 15 前期試験 16 第7章 数列 17 第7章 数列 18 第7章 数列 19 第5章 三角比 20 第5章 三角比 21 第5章 三角比 22 第6章 ベクトル 23 第6章 ベクトル 24 第6章 ベクトル 25 第6章 行列 26 第6章 行列 27 第6章 行列 28 第6章 行列 29 後期試験対策 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	アルゴリズム	授 業 方 法	講義
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・IT系技術者として必須のアルゴリズム(流れ図の作成方法、問題の解決技法、プログラムの組立方法)について学習します。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得&実際にプログラミングに組み込める実践力獲得を目指す。
教 科 書	うかる！基本情報技術者 [科目B・アルゴリズム編] 2024年版(著者:福嶋 宏訓、日本経済新聞)
年 間 授 業 計 画	1 基本的なアルゴリズム1 2 基本的なアルゴリズム2 3 基本的なアルゴリズム3 4 基本的なデータ構造1 5 基本的なデータ構造2 6 基本的なデータ構造3 7 探索1 8 探索2 9 探索3 10 探索4 11 スタックとキュー1 12 スタックとキュー2 13 再帰的アルゴリズム1 14 再帰的アルゴリズム2 15 再帰的アルゴリズム3 16 再帰的アルゴリズム4 17 ソート1 18 ソート2 19 ソート3 20 ソート4 21 ソート5 22 ソート6 23 ソート7 24 ソート8 25 ソート9 26 線形リスト1 27 線形リスト2 28 線形リスト3 29 線形リスト4 30 総合復習課題演習
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	表計算実習	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業研修等にて基本・応用・資格対策講習に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	以下Excelの基本的な操作を、習得後に練習問題を交えながら実習形式で学習します。 ・データの入力、表作成・数式や基本的な関数を用いた計算、グラフ作成、データベース機能の操作 ・画像、図形、Smartartの挿入
到 達 目 標	パソコンの基本操作・日本語の文字入力や変換を身に着けた後、表計算ソフト「Excel」の基本的な表計算、グラフ作成、データベース機能の操作をしっかり身につけ、2年次の応用につなげます。
教 科 書	よくわかる Microsoft Excel 2016 基礎(FOM出版)
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、Excelの基礎知識 2 データの入力と編集、範囲の選択、オートフィルの利用 3 練習問題 4 表の作成(数式の入力、関数の入力) 5 表の作成(罫線やセルの塗りつぶし等) 6 練習問題 7 データの表示形式、配置、フォントの設定 8 列や行の操作 9 練習問題 10 関数の入力方法、関数の利用 11 練習問題 12 相対参照と絶対参照 13 練習問題 14 練習問題 15 前期試験 16 複数シートの操作(シート名の変更、作業グループ) 17 複数シートの操作(シートの移動とコピー、シート間で集計、別シートのセル参照) 18 練習問題 19 表の印刷 20 練習問題 21 グラフの作成 22 練習問題 23 図形や画像の挿入 24 練習問題 25 データベースの利用 26 練習問題 27 検索と置換、PDFファイルとして保存 28 練習問題 29 練習問題 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験および課題の提出70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	ワープロ実習	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業等にて基本・応用・資格対策講習 担当		

■授業科目情報

授 業 内 容	主に以下の内容を実習形式で学習します。 ・P検タイピング練習のサイトを使用して日本語の入力練習。 ・文字の入力から表や画像、図形、Smartartの文書への挿入等編集を行い文書を作成。
到 達 目 標	パソコンの基本操作・日本語の文字入力や変換をしっかり身に着けた後、世界各国の企業、学校で標準的に使用されているワープロソフト「Word」で、今後に必要な文書の作成、また日本語ビジネス文書の作成操作をしっかり学んでいきます。 さらに、MOS Word2016資格取得の練習もします。
教 科 書	留学生のためのかんたんWord入門 MOS Word2016対策テキスト&問題集
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、パソコン操作と日本語入力の基本(学籍番号と名前(カタカナ)の入力) 2 MIKATYPEでローマ字入力練習、入力モードと日本語IME、ひらがなの入力と漢字変換 3 MIKATYPEでローマ字入力練習、単語の入力練習、文章の入力→文書の保存 4 P検タイピング練習、Wordの基本、簡単な文書作成→保存 5 P検タイピング練習、文字書式の設定 6 P検タイピング練習、段落書式の設定 7 P検タイピング練習、文書の入力と書式設定練習問題 8 P検タイピング練習、表の作成 9 P検タイピング練習、表の作成 10 P検タイピング練習、グラフィック要素1 11 P検タイピング練習、グラフィック要素2 12 P検タイピング練習、グラフィック要素3 13 P検タイピング練習、練習問題 14 P検タイピング練習、練習問題 15 試験実施 16 P検タイピング練習、前期の総復習→練習問題 17 P検タイピング練習、Smartart 18 P検タイピング練習、Smartart 19 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 20 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 21 P検タイピング練習、レイアウトの工夫(ページ区切り、段組み、段区切り、セクション切り) 22 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 23 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 24 P検タイピング練習、長文の作成に便利な機能 25 P検タイピング練習、MOS-Word2016練習 26 P検タイピング練習、MOS-Word2016練習 27 P検タイピング練習、MOS-Word2016練習 28 試験実施(タイピング、MOS-Word2016模擬試験実施) 29 P検タイピング練習、ビジネス文書の作成 30 P検タイピング練習、ビジネス文書の作成
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点(課題の提出)＝前期30% 後期10% ③試験＝前期40% 後期60% ・上記3つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	C言語	授 業 方 法	講義・実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・C言語について文法からプログラム作成の基本までを講義・実習を通して学び、プログラミング作成能力を身につけます。プログラムの流れの分岐や繰り返し等を理解し、配列、ポインタ、構造体、共用体についての知識を習得します。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得&実践的なプログラミング能力の獲得を目指す。
教 科 書	C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(著者:三谷純、翔泳社)
年 間 授 業 計 画	1 まずは慣れよう1 2 まずは慣れよう2 3 演算と型1 4 演算と型2 5 プログラムの流れの分岐1 6 プログラムの流れの分岐2 7 プログラムの流れの繰り返し1 8 プログラムの流れの繰り返し2 9 配列1 10 配列2 11 関数1 12 関数2 13 基本型1 14 基本型2 15 前期総合復習課題演習 16 いろいろなプログラムを作ってみよう1 17 いろいろなプログラムを作ってみよう2 18 文字列の基本1 19 文字列の基本2 20 ポインタ1 21 ポインタ2 22 文字列とポインタ1 23 文字列とポインタ2 24 構造体1 25 構造体2 26 共用体1 27 共用体2 28 ファイル処理1 29 ファイル処理2 30 後期総合復習課題演習
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②平常点=70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	総合日本語	授 業 方 法	講義・実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 3回 後期 3回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:半井麻里 都内日本語学校講師、海外(フランス滞在10年)イベント・ガイド通訳翻訳業務、現地日本語学校非常勤講師等の経験あり		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本語能力試験(JLTP)N2レベルの言語知識(文字語彙・文法)や聴解・読解の定着を図り、日常生活やビジネス場面で運用できるようにする。新聞記事やインターネットなどの生教材やSNSなども利用し、学んだ言語知識が社会的・学術的場面でどのように使われているかを理解する。
到 達 目 標	日本語能力試験(JLPT)N2レベル相当の言語知識(文字語彙・文法)や聴解・読解の定着を図り、また実際の場面で正確に運用できることを目指す。
教 科 書	・『日本語総まとめN2』(アスク出版)の漢字・語彙・文法・読解、その他時事など読解教材
年 間 授 業 計 画	1 第1週1, 2日 2 第1週3, 4日 3 第1週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 4 第2週1, 2日 5 第2週3, 4日 6 第2週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 7 第3週1, 2日 8 第3週3, 4日 9 第3週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 10 第4週1, 2日 11 第4週3, 4日 12 第4週5, 6日 13 復習(第1週、第2週) 14 復習(第3週、第4週) 15 前期試験 16 第5週1, 2日 17 第5週3, 4日 18 第5週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 19 第6週1, 2日 20 第6週3, 4日 21 第6週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 22 第7週1, 2日 23 第7週3, 4日 24 第7週5, 6日、7日まとめ問題(復習) 25 第8週1, 2日 26 第8週3, 4日 27 第8週5, 6日 28 復習(第5週、第6週) 29 復習(第7週、第8週) 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	・前期試験と後期試験を実施する。基本的には日本語能力試験(JLPT)対策として言語知識を問う選択問題を作成するが、日常の授業内でも提出物などを通してその言語知識を正確に運用できるように定着を図る。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職等それぞれの進路へ向けて円滑な活動ができるように、さらに就職後に活躍できる人材になるために、一般常識の学習、業界研究、資格研究、履歴書の書き方、自己PR方法を習得する。
到 達 目 標	1.自己分析をしたうえで、自らの能力、意思について、適切に表現できる。 2.志望する業界、技術動向について、自ら調べることができる。 3.自分の意見を述べることができ、かつ、適切なコミュニケーションをすることができる。
教 科 書	伸ばす！ 就活能力・ビジネス日本語力(国書刊行会)
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 自己分析 3 自己分析 4 業界研究 5 業界研究 6 資格研究 7 自己PR 8 志望動機探索 9 履歴書・エントリーシートの書き方 10 履歴書・エントリーシートの書き方 11 ビジネスとコミュニケーションの基本 12 ビジネスとコミュニケーションの基本 13 仕事の実践とビジネスツール 14 仕事の実践とビジネスツール 15 ビジネス用語の基本 16 情報処理技術者試験対策 17 情報処理技術者試験対策 18 情報処理技術者試験対策 19 情報処理技術者試験対策 20 ビジネス能力検定模擬試験 21 ビジネス能力検定模擬試験 22 ビジネス能力検定模擬試験 23 就職活動点検 24 ビジネスマナー実践 25 ビジネスマナー実践 26 コミュニケーション能力向上グループワーク 27 コミュニケーション能力向上グループワーク 28 身だしなみ 29 就職活動点検 30 後期まとめ
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験および授業課題到達度70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	情報化と経営	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・基本情報技術者試験範囲(情報化と経営)及び簿記の基本を学習する。
到 達 目 標	・基本情報技術者試験合格レベルの知識習得を目指す。
教 科 書	無し
年 間 授 業 計 画	1 簿記の基礎 2 商品売買 3 現金預金 4 手形と電子記録債権(債務) 5 有形固定資産 6 その他の取引 7 帳簿 8 試算表 9 伝票と仕訳日計表 10 決算手続き1 11 決算手続き2 12 決算手続き3 13 ITサービスマネジメント 14 前期復習問題演習 15 企業活動の基礎知識 16 企業の会計業務 17 財務や会計処理に係る計算 18 分析手法とプロセス改善手法 19 経営戦略と経営分析 20 マーケティング戦略 21 ビジネス戦略と技術開発戦略 22 情報システム戦略とシステム活用 23 経営管理システム 24 エンジニアリングシステム 25 e-ビジネス 26 ソリューションビジネス 27 知的財産を守る法律 28 セキュリティを守る法律 29 労働関連・取引関連の法律 30 企業が負う法令遵守の責任
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	表計算実習	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 安楽 尚美 1980年～1984年 松下電器産業 入社 官公庁関連営業所にて企画課勤務 2000年～現在 パソコンoffice系講師として自衛隊、自治体、大学、専門学校、企業研修等にて基本・応用・資格対策講習に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	1年次に「表計算実習」で学んだ基礎を踏まえ、さらに応用的な関数やグラフ作成、データ管理機能、データを効果的に見せる機能を学びます。 統計に必要な関数の知識とExcelマクロについても少し触れておきます。
到 達 目 標	機能を知っているのみならず、さまざまな場面においてその機能を効果的に使いこなせるよう目指します。 1年次に取得したMOS Excel2016スペシャリストの操作から、更にエキスパート合格レベルを目指します。
教 科 書	よくわかる Microsoft Excel 2016 応用(FOM出版) MOS Excel2016対策テキスト&問題集
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション、Excelの基礎知識の復習 2 Excelの基礎知識の復習 3 Excelの基礎知識の復習 4 Excelの基礎知識の復習(関数) 5 ピボットテーブル 6 関数の利用(ROUND関数、ROUNDDOWN関数、ROUNDUP関数) 7 関数の利用(RANK.EQ関数、IF関数、IF関数のネスト) 8 関数の利用(TODAY関数、DATEDIF関数) 9 関数の利用(VLOOKUP関数、VLOOKUPとIF関数の組み合わせ) 10 日商PC検定3級問題練習問題1 11 日商PC検定3級問題練習問題2 12 日商PC検定3級問題練習問題3 13 日商PC検定3級問題練習 14 日商PC検定3級問題練習 15 前期試験 16 ユーザー定義の表示形式 17 データの入力規則 18 シートの保護 19 複合グラフ 近似曲線 20 MOS Excel2016エキスパートの演習 21 MOS Excel2016エキスパートの演習 22 MOS Excel2016エキスパートの演習 23 MOS Excel2016エキスパートの演習 24 統計関数 25 統計関数 26 統計関数 27 Excelマクロ/VBA初級 28 Excelマクロ/VBA初級 29 Excelマクロ/VBA初級 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験および課題の提出70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	C言語	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:折本 陸郎 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	自ら処理の流れを設計、プログラミングできるようにするため、1年次の「C言語」「アルゴリズム」を土台として授業を実施する。 項目ごとに、教科書を用いた解説・サンプルプログラム、基本的な問題、発展的な問題演習を順番に実施することで、知識と能力を拡張できるように工夫する。
到 達 目 標	1. 基本的な開発の手順を理解し、実践できる。 2. 与えられた課題を適切に分解し、データとその処理の流れに置き換えて表現できる。 3. 問題を解く手順を、知っている手法と関係づけたり、または文献等で調べながらでも表現することができる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 1年次復習 2 入出力と演算子 3 入出力と演算子 4 入出力と演算子(ビット演算) 5 入出力と演算子(ビット演算) 6 処理の流れ 7 処理の流れ 8 関数 9 関数 10 配列 11 ポインタ 12 ポインタ 13 構造体 14 構造体 15 前期試験 16 構造体 17 リスト 18 リスト 19 共用体 20 共用体 21 列挙体 22 ファイル処理 23 ファイル処理 24 ファイル処理 25 標準関数 26 総合演習 27 総合演習 28 総合演習 29 総合演習 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・定期試験の評価70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	Java	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・JAVAプログラミング能力育成を行います。
到 達 目 標	・Java SE Bronze試験合格レベルのプログラミング能力達成。
教 科 書	スッキリわかるJava入門 第4版、オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE (試験番号
年 間 授 業 計 画	1 実習環境説明・eclipse操作実習 2 JAVAプログラムの書き方 3 式と演算子 4 条件分岐と繰り返し 5 配列 6 メソッド 7 複数クラスを用いた開発 8 オブジェクト指向 9 インスタンスとクラス 10 さまざまなクラス機構 11 継承 12 高度な継承 13 多態性 14 カプセル化 15 前期総合復習課題 16 Javaを支える標準クラス 17 文字列と日付の扱い 18 Webサイトアクセスのまとめ 19 コレクション 20 ArrayListの使い方 21 LinkedListの使い方 22 Set関連のクラス 23 Mapの使い方 24 コレクションの応用 25 例外 26 総合演習1 27 総合演習2 28 総合演習3 29 総合演習4 30 総合演習5
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT 学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	インターネットホームページ制作	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 小山田 和枝 民間企業のプログラマーとして就職。電子部品の商社勤務。大学の非常勤講師、アプリケーションテキスト作成業務、東京都障害者就職支援学校 非常勤講師。MOS資格取得授業、コンピュータサービス技能評価試験指導などを担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	HTMLタグを中心とした、ホームページ作成の基礎知識やコンテンツの作成までの流れを習得し、理解する。(コンテンツの内容については、学生の進捗状況による) 画像データの加工処理、デザイン関連の課題を作成予定。 WIXサイトを利用したノーコードのWebサイト作成し、公開まで行う。		
到 達 目 標	HTMLの基礎を理解した上で、実際のWebサイトの運営までを目標としたい。 ITパスポート試験における過去問題をベースにした模擬試験にて、試験合格を目指してインターネットの仕組みについて学ぶ。 Webサイトの作成と公開・モバイルサイトの設定までを目標とする		
教 科 書	HTML ワークブック ステップ30		
年 間 授 業 計 画	1 HTMLタグの理解 (サンプルページ、ソースの理解) 2 コンテンツの設計、作業の基本的な流れ 3 ファイル名と拡張子の理解 画像、イラストなどの素材利用時の説明 4 タグの基本と改行 5 見出しと段落 文字の装飾 6 文字の書式と行揃え 7 HTMLにおける色指定 8 画像の利用 9 画像のサイズと文字の配置 10 リンクの作成とパスの記述 11 特殊なリンクの作成 12 BODYタグに指定できる属性 13 TABLEの作成基礎 14 前期課題作成 15 前期試験・課題提出 16 TABLEタグに指定できる属性 17 Dタグに指定できる属性 18 TABLEのグループ化とセルの結合・WEBサイトを利用したTABLE作成 19 TABLEをレイアウトに利用する・TABLEをページレイアウトに利用する 20 フォームの作成・フレームの利用 21 CSSを利用する 22 文字書式のCSS・背景のCSS・サイズと余白のCSS (Tパスポート過去問題演習) 23 枠線のCSS・CSSを利用したデザイン (Tパスポート過去問題演習) 24 CSSでレイヤーを作成する・課題作成 25 WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 登録と使い方・テンプレートデザイン 26 WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 ページの構造と部品の追加 27 WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 コンテンツの追加と編集 28 WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 公開・SEOツール 29 WIXサイトによるノーコードWebサイトの作成 モバイルサイトのデザインへの設定変更 30 後期試験・課題提出		
成 績 評 価 方 法	①出席率 30% ②試験及び課題提出 70% 上記2項目の合計を100点満点とし、成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。		
備 考			

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	プレゼンテーション実習	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 浅川 順子 Microsoft office講師として自治体、専門学校で基礎から応用、資格取得授業を担当		

授業科目情報

授 業 内 容	訴求力のあるスライドを作成し効果的なプレゼンテーションを行うため、プレゼンテーションの概念を理解し、Power Pointの基本操作から表やグラフ、図形、画像を取り入れる技法について学ぶ。練習問題に取り組み繰り返し練習することにより操作をスムーズに行い、聞き手に直感的に理解してもらえるものを作る。
到 達 目 標	プレゼンテーションの概念・意義を理解し、Power Pointで発表者の考えをスムーズに正しく視覚化するための技術を身に付けること。「MOSPowerPoint 2016」を使ってMOS検定合格に向けてのカリキュラムも取り入れ、実践的な技術も習得すること。
教 科 書	よくわかるPowerPoint2016 MOSPowerPoint 2016

授業科目情報

年 間 授 業 計 画	1 Power Pointの概要と基礎知識 2 Power Pointの基本をマスターする(画面構成、プレゼンテーションの作成) 3 プレイスホルダーの操作、新しいスライドの挿入、箇条書きテキストの入力・編集 4 プレゼンテーションの構成の変更(スライドの複製・入れ替え)スライドショーを実行・保存 5 第2章練習問題 6 表を作成、編集する 7 表に書式を設定、文字の配置の変更 8 第3章練習問題 9 グラフの作成、レイアウト変更、書式設定 10 グラフのもととなるデータの修正、グラフの種類の変更 11 第4章練習問題 12 図形の作成と編集、書式設定 13 前期課題作成 14 前期課題作成 15 前期試験 前期課題提出 16 Smartartグラフィックの作成、図形の追加と削除 17 SmartArtグラフィックの移動・サイズ変更、スタイルの適用、書式設定 18 箇条書きテキストをSmartArtに変換、SmartArtグラフィックのレイアウト変更 19 第5章練習問題 20 画像とワードアートの挿入と編集、第6章練習問題 21 アニメーションと画面切り替え効果の設定、第7章練習問題 22 プレゼンテーションに役立つ機能(ペンや蛍光ペンの利用、発表者ビュー、リハーサルの実行) 23 プレゼンテーションに役立つ機能(目的別スライドショーの作成)第8章練習問題 24 MOS検定対策 MOSPowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(練習モードにて説明①) 25 MOS検定対策 MOSPowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(練習モードにて説明②) 26 MOS検定対策 MOSPowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(本番モードにて 模試第1回) 27 MOS検定対策 MOSPowerPoint 2016模擬テストプログラムにて(本番モードにて 模試第2回) 28 後期テストに向けての練習問題 29 後期テストに向けての練習問題 30 後期試験
授 業 の 進 め 方	その日の授業の目的を明確にし、テキストに沿って授業を進めます。日本語が苦手な生徒にも視覚で補助できるようモニターを使用し、分かりやすい言葉で伝えます。PowerPointを初めて学ぶ学生が基本操作を体で覚えられるよう繰り返し操作を行います。
成 績 評 価 方 法	①出席率 30% ②平常点 30% ③試験及び課題作成 40% ・上記3項目の合計を100点満点とし、成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	ビジネスマナー	授 業 方 法	実習
年 度	2024年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 西山百子 ホテル、航空会社勤務有 ビジネス実務マナー検定1級 サービス接客検定1級 ホテル実務検定(H検)ベーシック1級 特定技能(宿泊) アウトソーシング型 日本人社員新人研修 ホテル外国人社員研修 講師		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本での就職活動、就職を見据え、意識を育てる。授業では単に知識を身に付けるのではなく、学生一人一人にとってどのように応用できるか、社会で生かせるか導いていく。
到 達 目 標	就職に役立つビジネスマナーの基本をしっかりと身につけ、日常的に実践できるようになる。また就職活動のための準備も行う。
教 科 書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール 外国人実務能力検定 公式テキスト
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介 応用 職場での紹介 マンダラチャート記入 2 ビジネスマナーの基本 日本人と働く心構え 3 時間厳守・終業時間 4 上司、同僚との付き合い方 チームワーク 5 レポート「自国の会社の特徴と日本の会社の特徴」 6 面接練習(所作) 7 封筒、はがきの書き方 8 ビジネスメールの書き方① 9 ビジネスメールの書き方② 10 訪問のマナー 身だしなみ 11 名刺の扱い方 席次 12 スピーチ「自己分析 5年後、10年後の自分」 13 スピーチ 発表「自己分析 5年後、10年後の自分」 14 総復習 15 前期期末試験 16 役職、部署の名前 ビジネス用語 17 配慮のある話し方 18 報告・連絡・相談 19 話を聞く時 指示を受ける時 20 謝罪の意味 注意を受ける時 ロールプレイ 21 ハラスメント 22 ウチとソトの関係 23 電話対応① 24 電話対応② 伝言メモ作成 25 税金、社会保険について 26 外国人実務能力検定 プリント対応 27 外国人実務能力検定 プリント対応 28 総復習 29 後期期末試験 30 日本で働くために
成 績 評 価 方 法	出席・平常点30%、試験70% 上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	総合日本語	授 業 方 法	講義・実習
年 度	2024年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:半井 麻里 ・日本語非常勤講師:国内・海外(フランス)にて日本語学校講師 ・ガイドイベント通訳翻訳業に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	日本語能力試験(JLTP)N2レベルの言語知識(文字語彙・文法)の定着を図り、読解力や聴解力も含めて4技能を強化する。導入や文づくりのほか、新聞記事やインターネットなどの視聴覚教材やSNSなども利用し、学んだ言語知識が社会的・学術の場面でどのように使われているかを理解し、また実践的に応用できるように運用力の強化も目指す。
到 達 目 標	日本語能力試験(JLPT)N2レベル相当の言語知識(文字語彙・文法)の定着を図り、また読解や聴解においては実際の場面で正確に運用できることを目指す。
教 科 書	・『スピードマスターN2』(アスク出版)の漢字・読解、その他時事など読解教材 ・『Try!日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語』(アスク出版)
年 間 授 業 計 画	1 Unit1 衣食住① / 読解(短文) ・ 1 スタッフ募集のお知らせ 2 Unit2 衣食住②/ 読解(短文) ・ 2 転任のあいさつ(1) 3 Unit2 趣味・活動①/ 読解(中文) ・2 転任のあいさつ(2) 4 Unit3 趣味・活動②/ 読解(中文) ・3 ホテルの仕事 5 Unit3 人・心・体①/ 読解(長文) ・ 4 台風情報 6 Unit3 人・心・体②/ 読解(長文) ・ 5 就職活動(1) 7 Unit4 仕事・組織①/ 読解(情報検索)・5 就職活動(2) 8 Unit4 仕事・組織②/ 読解(情報検索)・6 苦労した5年間(1) 9 Unit5 自然・環境① / 新聞記事 ・ 6 苦労した5年間(2) 10 Unit5 自然・環境② / 新聞記事 ・ 7 オオカミと生態系(1) 11 実践問題① ・ 7 オオカミと生態系(2) 12 実践問題② ・ 8 取引先で 13 復習 14 前期試験 15 前期試験のFB 16 Unit6 地域生活①/ 読解(短文) ・ 9 食べ放題(1) 17 Unit6 地域生活①/ 読解(短文) ・ 9 食べ放題(2) 18 Unit7 社会①/ 読解(中文) ・10 満員電車(1) 19 Unit7 社会①/ 読解(中文) ・10 満員電車(2) 20 Unit8 科学①/ 読解(長文) ・ 11ラーメンの紹介 21 Unit8 科学②/ 読解(長文) ・ 12 ウォーキングシューズの開発(1) 22 Unit9 学問・研究①/ 読解(情報検索) ・12 ウォーキングシューズの開発(2) 23 Unit10 学問・研究①/ 読解(情報検索) ・13 人生の転機(1) 24 Unit10 N3-N5レベルの漢字① / 新聞記事 13 人生の転機(2) 25 Unit10 N3-N5レベルの漢字② / 新聞記事 ・14 オリンピックの開催について 26 実践問題① 27 実践問題② 28 復習 29 前期試験 30 前期試験のFB
成 績 評 価 方 法	前期試験と後期試験を実施する。基本的には日本語能力試験(JLPT)対策として言語知識を問う選択問題を作成するが、日常の授業内でも提出物などを通してその言語知識を正確に運用できるように定着を図る。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	2年
授 業 科 目 名	日本語受験対策	授 業 方 法	講義
年 度	2024年度	年間授業時間数	40時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:半井 麻里 ・日本語非常勤講師:国内・海外(フランス)にて日本語学校講師 ・ガイドイベント通訳翻訳業に従事		

■授業科目情報

授 業 内 容	就職活動を円滑に進めるためのライティングに慣れることを図り、導入から実際に要点をまとめて書くことを重点に行う。
到 達 目 標	将来的に就職に結びつくよう、どんな場面でも柔軟に対応でき、表現や語彙等の理解とパターンに慣れ、自信を持って自己アピールが出来るようにすることを図る。
教 科 書	『伸ばす就活能力・ビジネス日本語力』(国書)・『受かる! 自己分析シート』(日本実業出版)等
年 間 授 業 計 画	1 I 目標設定(ワークシート) 2 II 自己紹介(ワークシート) 3 II 自己分析(ワークシート) 4 II 業界・業種・職種(メモ・ワークシート) 5 II 勤務の条件 6 II 自己PR(ワークシート) 7 II 志望動機(メモ・ワークシート) 8 II 履歴書 9 II 面接の受け方(実践) 10 III 日本の地理(基礎知識) 11 IV 社会人基礎力(プレゼンテーション・メモ・テーマ決め) 12 IV 社会人基礎力(プレゼンテーション・発表) 13 V 仕事の日本語力(敬語) 14 V 挨拶(ロールプレイ)・復習 15 前期試験 16 V 訪問ロールプレイ) 17 V ビジネスメール 18 受かる自己分析 第1章 自己分析について 19 第2章 ワークシートの使い方 20 第2章 自己分析(抜粋ワークシート) 21 第2章 自己分析(抜粋ワークシート) 22 第2章 自己分析(抜粋ワークシート) 23 第3章 他己分析シート 24 第4章 自分に合った企業を見つける 25 第5章 履歴書作成について 26 第5章 志望動機作成シート 27 第5章 面接シート 28 第5章 面接(実践) 29 復習 30 後期試験
成 績 評 価 方 法	出席30%・授業への貢献度及び前期後期試験評価点70% ・上記3つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	IT学科	年 次	ITコース	2年
授 業 科 目 名	情報セキュリティ	授 業 方 法	実習	
年 度	2024年度	年 間 授 業 時 間 数	60時間	
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ	後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回	後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 辻 昌宏 IT業界にてSE・プログラマー・システムアドミニストレータとして就業後、IT業界にて起業。 現在、業界経験を踏まえたIT系講師として学生を指導。			

■授業科目情報

授 業 内 容	・Webプログラミング能力の育成を行います。
到 達 目 標	・HTML／CSS&JavaScriptを使用しWebプログラミングの基本を身につける。
教 科 書	
年 間 授 業 計 画	1 HTML+CSSの基本(第1章:HTML／CSS／JavaScriptの関係) 2 HTML+CSSの基本(第2章:文書の構造) 3 HTML+CSSの基本(第3章:最初のHTML) 4 HTML+CSSの基本(第4章:HTMLの書き方の規則) 5 HTML+CSSの基本(第5章:HTMLの主要要素) 6 HTML+CSSの基本(第6章:統合開発環境のすすめ) 7 HTML+CSSの基本(第7章:CSSの概要) 8 HTML+CSSの基本(第8章:CSSの書き方) 9 HTML+CSSの基本(第9章:ページのレイアウト) 10 JavaScriptの基本(第10章:プログラミング言語JavaScript) 11 JavaScriptの基本(第11章:変数と演算) 12 JavaScriptの基本(第12章:比較と条件式) 13 JavaScriptの基本(第13章:配列と繰り返し) 14 JavaScriptの基本(第14章:関数) 15 JavaScriptの基本(第15章:プログラムのバグをとる作業デバッグ) 16 JavaScriptの基本(第16章:オブジェクト) 17 JavaScriptの基本(第17章:組み込みオブジェクト) 18 JavaScriptの基本(第18章:プロトタイプ) 19 JavaScriptの基本(第19章:イベント) 20 JavaScriptの基本(第20章:関数オブジェクト) 21 Canvasの基本(第21章:Canvas要素で図形を描く) 22 Canvasの基本(第22章:さまざまな図形の描画) 23 Canvasの基本(第23章:座標系の設定) 24 実践:Webプログラミング1 25 実践:Webプログラミング2 26 実践:Webプログラミング3 27 実践:Webプログラミング4 28 実践:Webプログラミング5 29 実践:Webプログラミング6 30 実践:Webプログラミング7
成 績 評 価 方 法	①出席率＝30% ②平常点＝70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	